

「第12回オープン！子ども・家庭大臣室」

～上川大臣と企業のワーキング・マザーとの懇談会～

■ 開催状況

- ・ 日 時 平成20年4月16日（水）15：30～17：30
- ・ 場 所 上川陽子内閣府特命担当大臣室
- ・ 出席者

【J-win会員企業の管理職として活躍しているワーキング・マザーのみなさん】

三井住友銀行 浅山理恵さん、ベネッセコーポレーション 糸藤友子さん、
リクルート 岡崎仁美さん、松下電工 川原理恵子さん、みずほ証券 絹川幸
恵さん、帝人クリエイティブスタッフ 桑迫靖子さん、東日本旅客鉄道 小林
千佳さん、日本IBM 澤谷由里子さん、パイオニア 松宮由季さん

【内閣府】上川陽子内閣府特命担当大臣
板東久美子男女共同参画局長

J-win（ジャパン・ウィメンズ・イノベイティブ・ネットワーク）とは、企業のダイバーシティ・マネジメントを支援する特定非営利活動法人です。

■ 概況

男女共同参画推進連携会議の構成団体であるJ-winの会員企業9社で現在管理職として活躍中のワーキング・マザーを大臣室にお招きし、それぞれの企業における仕事の内容、管理職としての役割、仕事と生活を調和させて行く上で感じていることや国の施策に対する要望等についてお一人お一人が語りながら、意見交換を行いました。



懇談の様子

(ワーキング・マザーのみなさんより)

私たちの回りでは・・・

- ・ 女性の活躍について、風土の変革には時間がかかるが、上司の海外経験が豊かだったり、その娘さんが就職に直面したりすると理解してもらえる場合が多い。
- ・ 仕事をしているうちに結婚・出産のタイミングを逃し、結婚・出産を諦めている人も多く、やはり結婚や子育てをしながら仕事もできる環境作りが重要。
- ・ 子育て支援制度は充実してきたが、子育て中の女性も男性と同様の働き方をしないと認めてもらいにくい雰囲気がある。
- ・ 出産後に復職しようとしても子どもの預け先が無くて困ったとうケースが非常に多く、保育の充実を強力に進めて欲しい。
- ・ 夫が育休をとったが、その際やはり非常に風当たりが強かった。
- ・ ワーキング・マザーで楽しそうに仕事をしている方は、夫の協力を得ている場合が多い。育児も仕事もすべて女性に負担がかかると大変なので、男性の働き方を変えることがポイントである。

働き続けるモチベーションは？

- ・ 育休中、仕事が非常に恋しくなった。その時を思い出し、その後も頑張ろうと思える。
- ・ 学歴も高く総合職で働いている女性でも、結婚等を機にあっさりやめ、将来に不安を感じていない人が多いが、キャリア教育等が十分行われていないこともあると思う。
- ・ 女性が一旦仕事をやめてパート等で復帰する場合は、仕事を継続した場合に比べて、生涯賃金は半分になる。学生にもこういったことを伝える教育が必要。
- ・ 社会と一緒に歩むために、仕事を通じて何かを得ることができると感じている。
- ・ 父親が女性も働き続けるべきだという考え方の人だった。女性自身が働き続けるという意識を持つことと周囲の女性に対するステレオタイプの意識を変えることの双方が必要と思う。
- ・ ずっと働き続けることは想定していなかったが、社会とつながることの楽しさを感じ、途中で考え方が変わった。仕事も家庭も頑張ることで人生の彩りが非常に豊かになっていると感じている。

若い人たちをみて思うこと

- ・ 結婚、出産をしてキャリアも追求したいという若い女性も増えている。男性と同等の働き方をする「男働き」をしなくてもキャリアを考えられ、管理職になれる状況になることが重要である。
- ・ 会社では男性の上の年代層の人達が、自分たちがやってきた長時間労働が当たり前とする働き方を下の世代の人に押しつける傾向があり、若い人もその考え方に染まりがちであるため、男性の意識の改革が必要。
- ・ 女性の意識、やる気があまり強くないと感じる場合もある。これは、仕事の醍醐味を知らないために、乗り越えることをしないまま、仕事を辞めることにつながっている。
- ・ インターンシップも現在は就職活動の一環になっているが、働く喜びを感じたり、カッコいい大人に会えることがポイントではないだろうか。
- ・ 継続就業は女性にとっても会社にとっても利益があるんだということを理解しても

らうことが重要。

- ・ J-win の活動で女子高校生へのキャリア教育を行っている。キャリアを考える際、母親の影響は大きい。

女性のネットワーク

- ・ J-win の活動を通じて、女性がいるから動くことや、男女がともにいることの心地良さがわかるようになった。また、横の連携を持つことで情報発信を行うこともできる。このパワーがいろいろな変化をもたらす。
- ・ 社内で女性の登用を考える諮問機関のメンバーになった時は女性が多くて抵抗があったが、今は女性のネットワークがパワーになっている。



熱心に話をされる大臣

(大臣より)

- ・ 仕事をすると世界がひろがり、エネルギーを得ることができる。
- ・ 部下や後輩のために一步一步進んできた、進んでいるところを見せていただきたい。
- ・ 次の鍵を開ける時に必要なこと、女性が非常に頑張らなくてもやっていけるような知恵、たくさんの方が喜びを感じながら頑張るには次に何が大事なのか研究し、提案していただきたい。
- ・ 家族を大事にして欲しいと思っている。仕事でも何でもベストを尽くすことは重要だが、自分を客観視し、もう一步前進するためにも少し余裕を作ることが重要である。子どもが出来ても女性も余裕を持って世界を拓けることができる社会にしたいと考えている。女性が、従来の男性の働き方をしないで、いかに社会を変えていくことができるか、その挑戦を皆さんにもしていただきたい。本日はどうもありがとうございました。



皆さんと一緒に記念撮影